



乙吉だるま 幸ひなま 乙吉だるま 幸ひなま 乙吉だるま 幸ひなま 乙吉だるま 幸ひなま 乙吉だるま 幸ひなま 乙吉



幸ひなま 乙吉だるま 幸ひなま 乙吉だるま 幸ひなま 乙吉だるま 幸ひなま 乙吉だるま 幸ひなま 乙吉だるま 幸ひ



乙吉だるま 幸ひなま 乙吉だるま 幸ひなま 乙吉だるま 幸ひなま 乙吉だるま 幸ひなま 乙吉だるま 幸ひなま 乙吉



幸ひなま 乙吉だるま 幸ひなま 乙吉だるま 幸ひなま 乙吉だるま 幸ひなま 乙吉だるま 幸ひなま 乙吉だるま 幸ひ



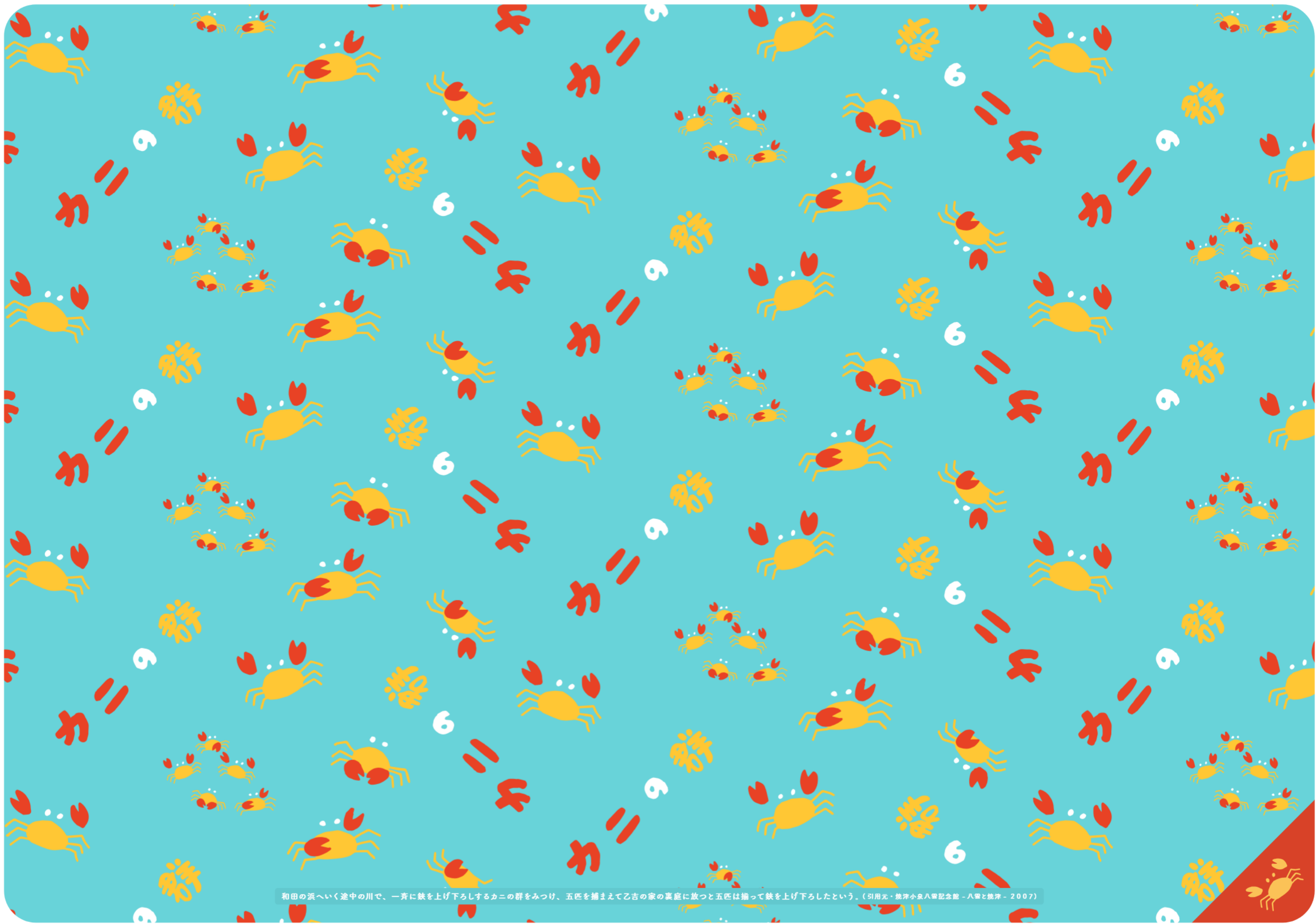
帰京のため午前三時に起き、何気なく神棚の方へ視線を移す。ほどなく薄明かりから、だるまに両目が入っているのを見つけた喜びは、「ちゃん和二つの目で」という言葉に集約されている。(引用元・挑洋小泉八景記念館 - 八景と挑洋 - 2007)





和田で捨てられる寸前の真っ黒な子猫をもらい「火の子」と名付けて、みんなで可愛がった。(引用元・熊津小泉八重記念館 - 八重と熊津 - 2007)





和田の浜へいく途中の川で、一斉に鉄を上げ下ろしするカニの群をみつけ、五匹を捕まえて乙吉の家の裏庭に放つと五匹は捕って鉄を上げ下ろしたという。(引用元・焼津小泉八雲記念館 - 八雲と焼津 - 2007)